

“東京の地域医療”を支えるリハビリ



地域医療を支える、正志会グループ

1. 東京の地域医療を支える正志会グループについて

理念：医療をもって社会に貢献する

急性期医療を中心とした地域包括ケアの実現に向け幅広い患者さんを受け入れる

今後高齢化が進行する中で、国が進める地域全体で住民の健康を診る地域包括ケアは急務な課題となります。それは東京都においても例外ではありません。私たちは、この地域包括ケアを実現するための病院として役割を担っていきたくと考えています。そのため、地域救急医療センターとなる病院、回復期リハビリテーション病院、地域包括ケア病床を有する病院、慢性期病床を有する病院を運営し、その特性に合わせて高度急性期の患者さんから回復期、そして慢性期に至る方々まで幅広く受け入れています。さらに、患者さんを地域の生活する場にお返しするために在宅診療所や訪問看護ステーションも運営し、退院後の在宅医療においても重要な役割を果たしています。

優秀な専門医が揃っている－高齢化とともに総合診療医の力が必要になる

私たちの病院には、非常に優秀な専門医が揃っています。そのため、患者さんは安心して治療を受けることができるのではないのでしょうか。私は医師には、専門医としての能力に加え、今後はさらに総合診療医としての能力を持ってほしいと考えています。例えば、これからの医師には、専門が整形外科であっても風邪の症状を的確に診断できるような力が必要になるのではないのでしょうか。それは、高齢者は複合的な疾患を抱えることが多く、専門分野外の診療が必要になるからです。つまり、専門家であると同時に総合的に患者さんを診ることができるプライマリ・ケアに対応できることが重要になっていきます。このため、私たちの病院では、総合診療医を病院全体で育てていきたいと考えています。

高齢者の増加とともに介護との連携も重要となる

今後、全国的に高齢者は増加していきますが、東京では同時に核家族化が進行しています。核家族化は、老々介護や独居の高齢者の増加につながる重要な課題です。地域包括ケアにおいて医療は重要ですが、これらの課題は医療だけでは解決できません。介護との連携など、医療を超えた事業を作りだすことが重要になります。高齢化が深刻化する2025年には、東京都で在宅医療が必要な患者さんは1日につき約14万人になり、今より5万人増えると言われていています。在宅医療の実現のためには、医療と介護の連携など多職種の連携は避けては通れないでしょう。

東京都では医療連携が重要となる－ネットワーク化の実現に向けて

東京都は全都的に広く患者さんが移動すると言われていています。それは、がんのように急がずにじっくりと専門医を選んで受診するような病気や治療に緊急を要さない慢性期の患者さんは、必ずしも地元の病院を選ぶとは限らないからです。また、治療に緊急を要する患者さんであっても自宅と離れた地域に搬送される場合もあります。そのため、東京都においては、地元のみならず全域に渡る医療連携が重要になるでしょう。

電子カルテのネットワーク化・地元の病院へお返しするための病院救急車

地域包括ケアの実現に向けて－生活者を支える病院へ

お話ししてきたように、今後高齢化が進行する中で、地域で患者さんを診る地域包括ケアを支える医療が重要になります。地域包括ケアとは、生活者を中心に置いた医療介護サービスです。その領域は、疾患の治療のみならずヘルスケア全般に及び、生活者を支えるということの意味します。生活者の視点に立ち、生活を支える医療でありたいというのが私たちの願いです。そのために、私たちは患者さんを選ぶことはありません。どなたにも来ていただきたいと思っています。すし、どんな患者さんにも対応できる病院を目指していきます。

新型コロナウイルス感染症への対応

私たちは必要とされる医療を提供することが使命と考えています。新型コロナウイルス感染症に対する医療は、絶対的に必要とされるものであり、平成立石病院、南町田病院、花と森の東京病院で入院医療を提供し、荒木記念東京リバーサイド病院や葛飾リハビリテーション病院ではポストコロナの患者さんを受け入れました。発熱外来、PCR検査などの検査、ワクチン接種は全病院で行いました。その他臨時医療施設の運営なども行い、おそらく日本一新型コロナウイルス感染症の診療を行った民間グループではないかと自負しております。要するに高齢化に対応した医療であっても、感染症に対応する医療であっても、住民の方に必要とされる医療を提供することが私達の使命です。私達でなくてはできないことを考え私達なりの進化を続け、ニーズに応え続けていきたいと考えております。



ペンギングループ
CEO 猪口正孝
医師・医学博士

災害医療・救急医療・COVID-19への取り組み/チーム医療



いち早く、
当事者意識をもって



ペンギングループの名前の由来

グループの初めての病院「平成立石病院」を開院した時のこと。手術に診療に、誰よりも院内を動く猪口院長(当時)の姿とペンギンを重ねて、入院中だった患者様(デザイナー)がロゴマークを作成してくれたのが始まりです。今のグループのスタートを築いた猪口理事長はまさにファーストペンギンでした。あれから20年以上が経過した今。当グループには、今、その時々ファーストペンギンがたくさんいます。そんな組織になりました。ファーストペンギンとは、「いつも同じ誰か」なのではありません。「誰もが」ファーストペンギンになれます。当グループでは、「当事者意識」「自分事として」という言葉がたびたび登場します。

必要な時には誰もがファーストペンギンになろう!
そんな願いが込められているのです。



救急・急性期～回復期、在宅まで

- 2002年 平成立石病院開設
- 2003年 医療法人社団正志会開設
- 2004年 南町田病院開設
- 2005年 医療法人社団直和会開設
- 2009年 東京リバーサイド病院開設
- 2011年 正志会 社会医療法人認定
南町田訪問看護ステーションペンギン開設
- 2012年 立石訪問看護ステーションペンギン開設
- 2013年 花と森の東京病院開設
- 2015年 花と森の訪問看護ステーションペンギン開設
東京リバーサイド訪問看護ステーションペンギン開設
- 2016年 葛飾リハビリテーション病院開設
平成立石ペンギンクリニック開設
立石介護支援センターペンギン開設
南町田介護支援センターペンギン開設
東京リバーサイド病院「荒木記念東京リバーサイド病院」に名称変更
- 2018年 ペンギンステイ南町田(看護小規模多機能型居室介護)開設
南町田ペンギン在宅診療所開設
- 2022年 令和あらかわクリニック開設
- 2023年 令和あらかわ病院開設



平成立石病院



1. 救急患者受け入れ件数が都内有数

脳卒中センターがあるため急性発症疾患(特に脳血管疾患)を多く受け入れており、入院(発症)直後から早期治療とリハビリテーションを行うことで運動機能改善に努めております。

2. 地域密着型の高度医療を提供

区の災害拠点病院でもあり、災害医療の支援にも医療専門職の一員としてリハビリテーション専門職が携わりサポートしています。具体的には、高齢被災者のフレイル予防や災害時の取り巻く環境に合わせた専門職の助言など行っています。

3. 地域連携・グループ内連携

グループ内の回復期リハビリテーション病院や地域包括ケア病棟のある病院と連携を取り、患者様が安心してリハビリテーション医療を継続できるように「救う・治す医療」から「支える医療」も大事にしています。

患者様がこの住み慣れた地域に戻れるように地域の様々な施設と連携をとり、地域の同じリハ専門職、や他専門職も含め、さまざまな方と患者を支え、さらに地域を支えるリハビリテーションを担っています。地域を通じて、専門職種で学びあえる環境があり、病院内のスタッフだけでなく、さまざまな人とつながることができます。

所在地	〒124-0012 東京都葛飾区立石5-1-9 TEL03-3692-2121 FAX03-3692-2663
診療科目	内科、外科、脳神経外科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、泌尿器科、肛門外科、麻酔科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、神経内科、救急科、リハビリテーション科
病床数	203床（急性期一般1）
病院機能	東京都指定地域救急医療センター、東京都災害拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院



葛飾リハビリテーション病院



1. 葛飾区で初の回復期リハビリテーション病院

葛飾区で初のリハビリテーション病院として、脳血管疾患・運動器疾患を中心としたリハビリテーションを提供しています。

2. エビデンスに基づいたリハビリテーション

セラピストを中心とした多職種連携で一人ひとりの患者様に必要かつ効果的なリハビリテーションを提供しています。多職種がそれぞれの専門性を生かし、協働しています。

3. リハビリ後の患者様を想定した「支える医療」を提供

施設や自宅に患者様が安心して退院できるように、「この先の日常生活や暮らし」を想定した支える医療を提供しています。

所在地	〒125-0061 東京都葛飾区亀有2丁目18番27号 TEL:03-6231-2020 FAX:03-3604-8041
診療科目	内科、整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科
病床数	83床（回復期リハビリテーション病床83床）、 日本医療機能評価機構認定病院



南町田病院



1. 地域の中核病院

地域住民の方が安心して生活できるように、急性期から回復期リ、外来リ、訪問リと提供しています。町田市介護予防事業にも参加しています。

2. 多職種連携で急性期から回復期まで

チームアプローチや連携に力を入れており、専門職としての役割とチーム医療の中でお互いに協働することを重要視しています。

3. 教育に力を入れています

スタッフ50名近く在籍し、その中でもベテラン40%、中堅が30%と経験者が多いです。そのため、安全で質の高いリハビリを提供できるように科内教育を充実させ、多くの学生も受け入れています。

所在地	〒194-0004東京都町田市鶴間4-4-1 TEL：042-799-6161 FAX：042-799-7711
診療科目	内科(循環器、消化器、呼吸器、神経、腎臓、透析)、外科(消化器、呼吸器)、 乳腺外科、形成外科、肛門外科、リハビリテーション科、麻酔科、整形外科、 脳神経外科、小児科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、婦人科、眼科、救急科
病床数	222床 (急性期一般1病床188床、回復期リハビリテーション病棟34床)
病院機能	東京都指定地域救急医療センター、東京都災害拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院



令和あらかわ病院



1. 荒川区の地域医療を支える中心的な医療機関として

地域住民の方が安心して生活できるように、ICU・急性期から回復期リ、外来リまで一貫したリハビリテーションを提供しています。

2. 日本医科大学付属病院の特別連携病院として

先進・高度専門医療・三次救急を行う大学と密なつながりを持ち、様々な疾病と障害に対してアプローチをしています。

3. 病院の目の前に公園を造園

区民の地域住民の憩いの場として大きな公園が設置される予定です。病院から屋外歩行訓練として活用するのはもちろん、他には地域住民の子供から高齢者まで様々な方が、スポーツや運動機会を通して交流の場となり、そこで専門職として携わる機会があります。

所在地	〒116-0012 東京都荒川区東尾久5-45-1 TEL:03-6807-7500 FAX:03-6807-7503
診療科目	内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、乳腺外科、 泌尿器科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、リハビリテーション科、 麻酔科、救急科
病床数	240床 (急性期一般病床113床、ICU病床16床、回復期リハビリテーション病棟111床)



花と森の東京病院



1. HUB機能を発揮する病院

グループ病院の内外との密接な関係とつながりにより、大学・地域・グループ病院と連携しています。当院は地域のHUB病院としての機能があるため、様々な疾病や障害の患者様に対して、急性期から回復期リハビリテーション、在宅まで、しっかりとリハビリテーションを提供しています。

2. この地に長く続く地域に欠かせない病院

昭和11年からこの地にある地域に欠かせない病院です(旧財務省病院を継承)。地域住民の方の健康管理サポートとして、外来リハビリテーションや健診事業、地域支援活動などを行っており、予防や産業にも関与しています。

3. 積極的な救急や災害医療への関与

リハビリテーション部門も感染症患者へ、早期から積極的に関わり、機能やADL向上に関与します。また、災害医療で被災者やとりまく環境に対してリハビリテーションを提供しています。

所在地	〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-3-6 TEL:03-3910-1151 FAX:03-3940-5710
診療科目	内科、外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、婦人科、泌尿器科、リハビリテーション科、皮膚科、形成外科、健診センター
病床数	199床 (急性期一般1病床144床 回復期リハビリテーション病棟55床)
病院機能	東京都指定2次救急医療機関、東京都災害拠点連携病院 日本医療機能評価機構認定病院



荒木記念東京リバーサイド病院



1. 赤ちゃんから高齢者まで地域医療に貢献

子育て世代の若い世帯から高齢者まで幅広い対象者へリハビリテーションを実施し、住み慣れた地域の患者様の生活を支えます。

2. 在宅復帰に向けて幅広い経験が出来る病院機能

急性期の一般病棟や地域包括ケア病床はリハビリ目的で入院される患者様が8割を占めます。治療を行いながら、退院に向けて、他職種連携を図ります。在宅復帰に向けて家屋調査や調理訓練、買い物訓練なども実施しています。また退院後は訪問リハを実施し、一貫したリハビリテーションを提供しています。

3. ウィメンズリハビリテーション

女性のお体の悩みや不調に対する障害のリハビリテーションを行っています。新しい分野で世界では有用性が認められていますが、国内では実施施設は少ないです。

所在地	〒116-0003 東京都荒川区南千住8-4-4 TEL03-5850-0311 FAX03-5850-0312
診療科目	産科、婦人科、小児科、内科、外科、乳腺外科、整形外科 リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
病床数	109床 (レディース病棟55床、急性期一般病床40床 地域包括病床14床)
病院機能	東京都指定二次救急医療機関、日本医療機能評価機構



亀有病院



1. 地域で長く地域医療を展開

1941年から地域の皆さんに親しまれてきた病院です。今も地域の皆さんと密接に関わりながら必要な医療を提供しています。

2. 急性期・回復期・慢性期・在宅まで地域包括ケアを提供

長年この地で暮らす方々が安心して生活できるように急性期から在宅までシームレスな地域包括ケアを実践しています。

所在地	〒125-8520 東京都葛飾区亀有3-36-3 TEL : 03-3601-0186 FAX : 03-3604-5518
診療科目	内科、循環器科、呼吸器科、外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、内視鏡科
病床数	98床（一般病床60床、療養病床38床）
設備 等	各種X線検査（胃透視・注腸・血管撮影） CT・MRI マンモグラフィ 内視鏡（胃・大腸・気管支・ERCP逆行性管膵管造影） 各種エコー検査 脳波 他

寿康会病院



所在地	〒136-0073 東京都江東区北砂2-1-22 TEL:03-3645-9151 FAX : 03-3646-1295
診療科目	内科、循環器科、呼吸器科、外科、乳腺外科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、泌尿器科、内視鏡科
病床数	98床（一般病床60床、療養病床38床）
設備 等	各種X線検査（胃透視・注腸・血管撮影） CT・MRI マンモグラフィ 内視鏡（胃・大腸・気管支・ERCP逆行性管膵管造影） 各種エコー検査 脳波 他

2.地域医療を支える、正志会グループのリハビリ

幅広い領域で「暮らしやすさ」を取り戻す為の仕事



入院直後や術後の早期から、廃用症候群を予防すべく積極的にリハビリテーションを行い、回復期へと連続する密度の高いリハビリテーションを提供しています。患者さんへ寄り添い共に障害を克服するために支援します。

正志会グループのリハビリテーション専門職は、急性期から回復期、在宅、地域リハビリテーション活動と幅広い時期を経験できます。具体的には、急性期のリスク管理から回復期の積極的な機能や能力の回復と在宅復帰に向けた支援、そして住み慣れた地域へ戻ると、同じ法人の訪問看護ステーションからの訪問リハビリテーションや地域高齢者の健康予防事業と幅広い時期があるため、それぞれの知識と技術が必要とされます。知識と技術は常に進化するため、専門職としてチャレンジする気持ちがある方を求めています。若いスタッフが多く明るい雰囲気でもとても活気があります。スタッフ同士で声を掛け合い皆でフォローし、前向きに様々な事へチャレンジしています。



理学療法士技師長 宮城春秀

年間さまざまな行事・イベントがあり、職員交流も盛んです

TOPICS **バンキンググループ2023年度行事・イベント**

月	行事	病院	月	行事	病院
3月	開院	令和あらかわ病院	10月	北区合同災害訓練	花と森の東京病院
4月	新入職員オリエンテーション	全病院	10月	消防訓練	花と森の東京病院
4月	職員健診	全病院 (随時)	10月	健康まつり	花と森の東京病院
4月	新入職員歓迎ボーリング大会	荒木記念 東京リバーサイド病院	11月	近隣企業へのインフルエンザ予防接種	平成立石病院
5月	歓迎迎会バーベキュー	平成立石病院	11月	消防訓練	平成立石病院
5月	消防訓練	平成立石病院	11月	災害訓練	平成立石病院
5月	消防訓練	荒木記念 東京リバーサイド病院	11月	鍋パーティー	平成立石病院
5月	自衛消防訓練	葛飾リハビリテーション病院	11月	職員健診 (秋)	南町田病院
6月	自衛消防訓練	荒木記念 東京リバーサイド病院	11月	自衛消防訓練	荒木記念 東京リバーサイド病院
7月	葛飾区花火大会+バーベキュー大会	平成立石病院	11月	自衛消防訓練	葛飾リハビリテーション病院
8月	納涼会	平成立石病院	12月	忘年会・納会	全病院
8月	夕入祭り	荒木記念 東京リバーサイド病院	2月	節分祭	荒木記念 東京リバーサイド病院
9月	職員バーベキュー	花と森の東京病院	2月	市民公開講座	花と森の東京病院
9月	ウォーキング大会	荒木記念 東京リバーサイド病院	未定	消防訓練 (年2回)・各研修	南町田病院
			未定	病棟レクリエーション・町会行事	葛飾リハビリテーション病院

新型コロナウイルスの状況により、開催・変更または中止になる場合があります。



入社式は、各病院集合 & オンラインで6病院をつなぐハイブリッド型開催

3. 正志会グループのリハビリテーション科教育

長いセラピスト人生のために、卒後5年でセラピストとしての基礎を作る

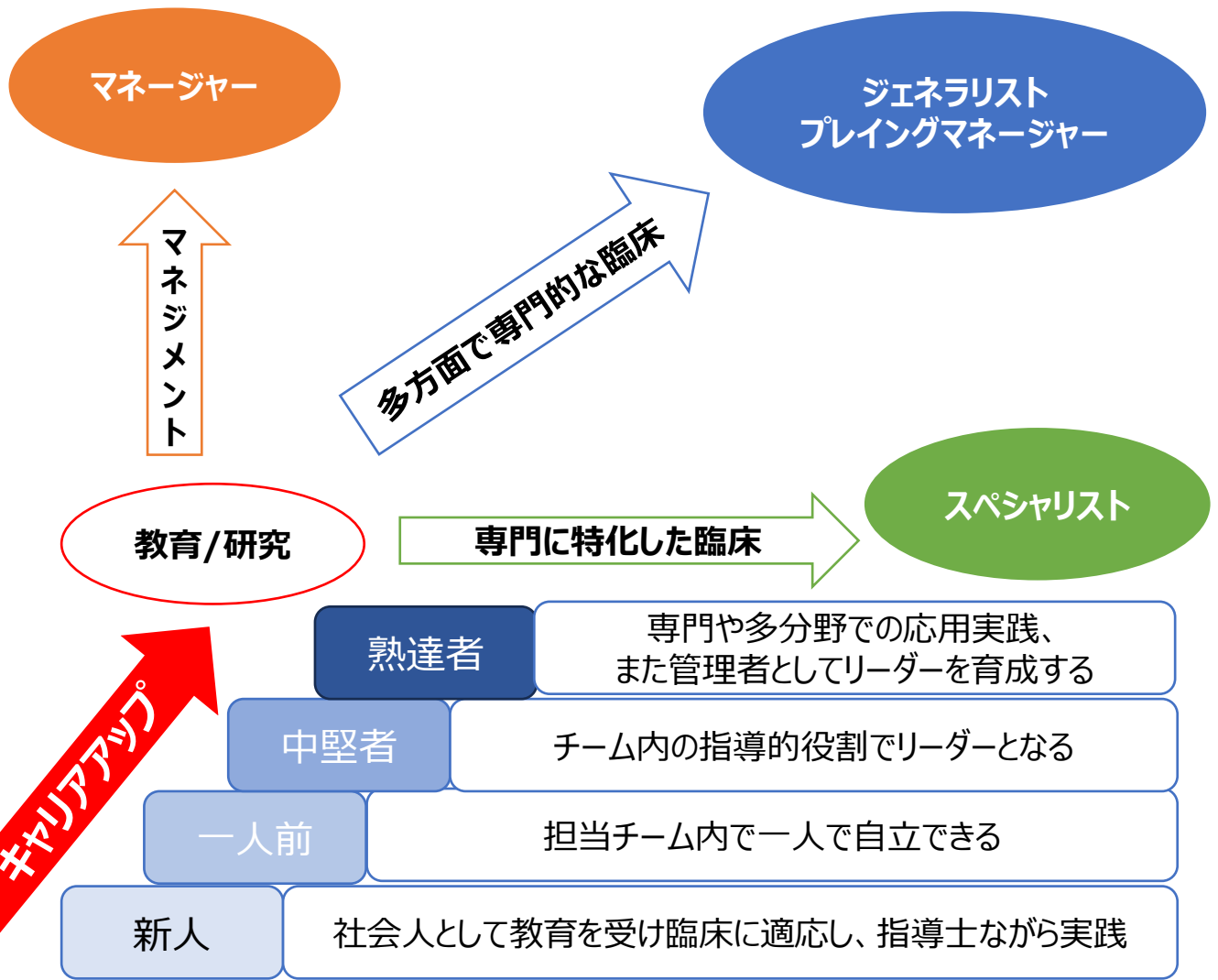
卒後5年で最も必要な社会医療人としての心構えをはじめ、エビデンスに基づいた幅広い臨床評価や基本的な治療を実践できることを目標とする。その上で継続的に専門的な評価・治療を学び、臨床家としての幅を広げる。

職場の仲間と協働学習を行い、臨床の質を深掘りする

お互いに学び合い、仲間と協働学習を通して高め合う。
また専門職のプロとして、妥協をせずに臨床の質を深掘りし効果を追求する。

生涯学習を通して、長く働くことができる職場にする

臨床、教育、研究の3本柱で生涯学習を能動的に実践し、さまざまなキャリア形成ができる。そして、仕事のやりがいを感じ長く勤める体制がある。



グループ病院の役割で多方面で専門性を発揮することができます。

また、専門性を高める支援をするジェネラリスト、プレーイングマネージャーや療法士認定資格のスペシャリストが多数活躍しています！



脳卒中認定理学療法士/葛飾リハビリテーション病院

脳卒中を発症された患者様に対し、リハビリテーションを通して力になりたいという気持ちから、認定を取得しようと思いました。認定を取得する過程の中で、脳卒中患者に対するリハビリテーションをより深く学べたことが良かったと感じます。また微力ではありますが、自分が学んだ知識と技術を後輩スタッフに還元出来たのではと感じています。



運動器認定理学療法士/南町田病院

学生時代から怪我・変形性疾患・骨折後のリハビリテーションに興味があり、継続して知識・技術をアップデートしていく方法の一つとして認定取得を目指しました。認定は取得しておしまいでなく更新のためには継続して学習・学会参加発表していく必要があり、自分の知識・技術のアップデートツールとして使うことが出来ています。

-スタッフ紹介- 活躍する スペシャリスト



言語聴覚士 失語・高次脳機能障害領域/令和あらかわ病院

認定資格を持って活動していた先輩をみて「この人みたいになりたい！」というのが目指すきっかけでした。

STの領域は聴覚障害・言語発達障害・摂食嚥下障害など対象領域は多岐にわたりますが、臨床現場だけでなく、地域で活動を行う上でも視野を広げることに繋がった点はとって良かったと思います。また、“障害”にまつわる専門知識から臨床における具体的なノウハウなど、臨床現場で活かしています。



脳卒中認定理学療法士・循環認定理学療法士/南町田病院

臨床の中で何でだろう？からもっと効果的な理学療法を進めるためにどんな勉強をすれば良いだろう？と模索していた時に認定療法士の存在を知り挑戦をして取得したいと思ったことから目指しました。

臨床推論の過程、エビデンス、ガイドライン、学会抄録作成などにおいて様々な知識がより多く経験することが出来ます。



2011年入職 作業療法士/葛飾リハビリテーション病院

明るく広いリハビリ室で、患者さんの退院後の生活を見据えて、上肢機能訓練や家事動作訓練、病棟でのリハビリも含めてADL訓練を行っています。
認知機能が低下している患者さんには、認知課題や作業活動を通して、入院生活に伴って更に認知機能が低下しないように働きかけています。
また、自分のライフスタイルの変化に伴って、上肢の方にも相談しやすく、業務内容や業務量の考慮をしていただき、子供がいる場合は男性・女性問わず育児と仕事の両立がしやすい職場だと思います。私自身、産休・育休を経験して現在育児と仕事を両立していますが、子供がいても安心して楽しく働くことができます。



2019年入職 理学療法士/花と森の東京病院

入職してすぐに回復期リハビリテーション病棟に配属されました。そこで2年間半の間、回復期リハの入院患者さんを経験させてもらい、今は一般病棟の急性期の入院患者を担当させていただきいろいろな経験しています。
いろいろな先輩と相談しながら、安心して学んだことを活かしていけるので、とても働きやすいと思います。



-先輩からの声-



2019年入職 理学療法士/南町田病院

私は学生時の当院の実習生でした。その時に先輩の皆様が、患者様の生活や趣味活動等、リハビリを通して作業の再獲得を大切にされている姿を見て憧れを持ち就職しました。リハ科内はもちろんですが他職種とも密に連絡を取りやすい環境なのが強みです。

急性期で担当させて頂いていた患者様が回復期リハビリや訪問リハビリでの様子も知ることが出来るので長く経過を追うことが出来ます。また、休日申請はシフト制で休み希望の申請が取りやすく、自分の趣味の予定との調整も出来ています。

4. 地域医療を支える、正志会グループの魅力

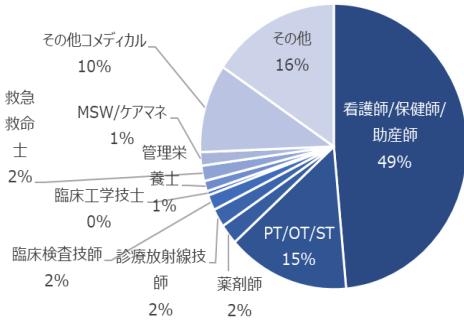
どんな人が働いているの？

総職員数 約2,000人

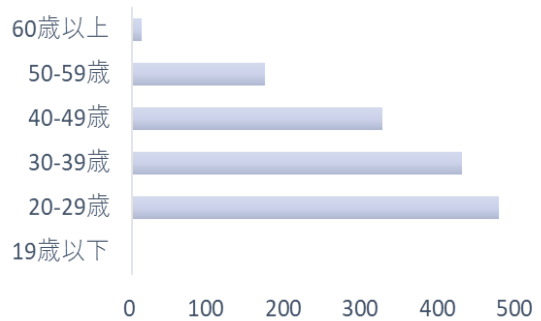
平均年齢 36.0歳

リハビリテーション科 平均年齢 28.0歳

職種別職員割合(医師除く)



年代別職員割合(医師除く)



どんな魅力があるの？



1. 幅広い知識と技術が習得できる

救急・急性期から回復期・在宅まで幅広い知識と技術が習得できます。

- ・救急・急性期リハビリ
- ・回復期リハビリ
- ・リハビリ専門病院でのリハビリ
- ・在宅リハビリ
- ・産後リハビリ



2. 充実の教育体制

ガイドラインに即した教育プログラムをマンツーマン教育体制で実施

- ・配属先の先輩からのマンツーマンでの臨床指導
- ・チームで・みんなでサポートする教育環境
- ・病院間の横断的交流多数あり



3. 一人ひとりに合ったキャリアアップ支援

キャリアを中断することなく様々なスキルの習得が可能
(グループ内に8病院あるメリット)

- ・多数の認定療法士が活躍中
- ・「こんな療法士を目指していきたいが実現できる
- ・専門領域での能力が獲得していきたいも実現できる



4. 充実のワークライフバランス

しっかり働きしっかり遊ぶ・休む

- ・年間休日120日以上
- ・平均残業時間5時間未満/月
- ・有給取得率81%
- ・産休・育休復帰率100%



5. チームの中で働く・学ぶ・成長する喜びとやりがい

様々なリハビリニーズのある患者さんに対してPT/OT/STが協働してリハビリを行っています。

- ・300名以上のリハビリスタッフが在籍
- ・若いスタッフが活躍するチーム(平均年齢28歳)
- ・周りに相談しやすい環境
- ・ホスピタルカウンセラー



6. 都内屈指の病院グループならではの安心感

東京の地域医療を実践する正志会グループ

- ・2000名以上の職員
- ・8病院・訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・居宅支援事業所・看護小規模多機能型居宅介護
- ・救急車受け入れ台数都内上位(昨年度実績第6位)
- ・新型コロナ感染症患者受け入れ数都内トップクラス

リハビリテーション科 募集概要（新卒採用）

- ◆ 募集部門：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
- ◆ 勤務時間：8：30～17：30（60分休憩）
- ◆ 休日：4週8休制＋祝日 年間休日数120日以上
- ◆ 給与：基本給 210,000円
職務手当：（初年度）10,000円
（次年度）20,000円
皆勤手当：5,000円
職種手当：3,000円 ※対象病院
月給：228,000円（2年目 242,000円）
- ◆ その他 賞与年2回（昨年度実績3.5か月）、
昇給あり、食事補助あり

病院見学・選考申し込みは下記よりエントリーをお願いします

理学療法士



作業療法士



言語聴覚士



Instagramなど各種SMS更新中！



HP



Instagram



Face book

社会医療法人社団正志会グループ

本部 採用育成担当部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目3番地お茶の水高木ビル

TEL 03-5244-5375

FAX 03-3518-9962

メールアドレス：saiyo@trshp.jp



地域医療を支える、正志会グループ

どこに住んでいても、

その人にとって適切な医療が

受けられる社会へ

